

教科	家庭	科目	家庭基礎	担当	
履修学年	1年	単位数	2	履修区分	普通科(必修)
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材等	家庭基礎 学習ノート (東京書籍)				

1 学習目標

1	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。
2	学習した知識と技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する能力を育成する。
3	家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 学習評価

評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
a 主体的に取り組む態度	よりよい家庭生活の創造に向けて、家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活に関心を持ち、課題解決に主体的に取り組んだり、実践しようとしている。
b 思考・判断・表現	生涯を見通して家庭や地域における生活課題を見だし、解決策を考え改善・実践し考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
c 知識・技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭・衣食住・消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につけている。

3 全体計画

期	月	内容の まとめ	単元 (題材)	項目 (学習内容)	評価の観点			単元の評価規準	評価方法	
					a	b	c			
前期	4		生涯を見通す	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	○	○	○	a 生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージの特徴と課題に関心を持ち、家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう考え実践しようとしている。	学習状況 ワークシート 学習ノート レポート 前期中間考査	
				人生をつくる				1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会		b 生活課題に対し、意思決定を行う重要性を理解し、歩みたい人生の目標を考えることができる。 家族や家庭生活の在り方などについて検討するために、新聞や書籍などから必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。
								c 生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解している。 生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるように様々な生き方について理解している。 現代家族の特徴、家庭機能の変化、家庭生活と社会とのかわりについて理解している。		
	5	家族と社会の共生	子供とともに育つ	1 命を育む 2 子供の育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 これからの保育環境	○	○	○	a 子どもの発達と保育について関心を持ち、実践的体験的活動をとおして主体的に学習活動に取り組んでいる。		学習状況 ワークシート 学習ノート レポート 前期中間考査
				b 子どもの発達と保育について現代社会の課題を見だし、その解決を目指して思考を深め適切に判断し表現している。 子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか、考え実践しようとしている。						
				c 性と生殖に関する健康について理解している。 子どもの発達と保育について理解し、家族や地域、社会の果たす役割を認識するために必要な知識を理解している。 子どもと適切にかかわることができ、その発達を支援するために必要な技術を身につけている。						
6	前期中間考査	家族と社会の共生	1 超高齢化社会の現状 2 高齢者の心身の特徴 3 介護をめぐる問題	○	○	○	a 高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活などについて関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえ、高齢期の生活について考えようとしている。	学習状況 ワークシート 学習ノート レポート ミシン実技テスト 製作作品 前期末考査		
			共に生き共に支える				1 生活と福祉 2 共に生きる		b 高齢者や高齢者を取り巻く社会について、具体的に課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、まとめることができる。 社会制度の理念と内容やボランティアのあり方について考えを深め、社会の一員として、共生社会を実現するために何ができるか考え、表現している。	
			生活の自立				1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 これからの衣生活 5 布を用いた生活の知恵  ※被服製作実習		a 衣生活に関心を持ち、人間と被服、気候と被服のかかわりを考えようとしている。 b 各ライフステージに適した衣服の役割、適切な着装、衣生活の管理について考えを深めている。 c 着装、被服材料、被服構成、被服製作、被服管理などについて理解している。 ミシンや手縫いを理解し、簡単な小物作りができる。	
9	前期末考査	ホームプロジェクトの研究 夏休みの課題	夏期課題として取り組ませ、生活課題を発見する視点や課題を解決するための手立てについて理解を深める	○	○	○	a 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え実践しようとしている。 b 生活の課題を見出し、その解決を目指し成果と課題をまとめて発表している。 c ホームプロジェクトの意義と実施方法について理解し、実践している。		実践レポート	

後 期	5	生活の自立	住生活をつくる	1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 これからの住生活	○	○	○	a 住居の機能や住空間の計画などについて関心をもち、よりよい住生活について考えようとしている。 b ライフスタイルや価値観に応じた、生命と健康を守るための暮らしのあり方や防災について考え、工夫している。 c 住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて理解している。	学習状況 ワークシート 学習ノート レポート 前期末考査
			食生活をつくる	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の安全と衛生 4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 これからの食生活 7 日本の伝統的な食文化 ※調理実習	○	○	○	a 自分や家族の食生活に関心をもち、食生活と健康のかかわりを考え、意欲的に食生活の改善・向上に努めようとしている。 調理実習や実験などに、積極的に取り組もうとしている。 配膳やマナーについて関心を持つ。 郷土料理や行事食などの良いところを継承・創造するために、日本の食文化について興味を持つ。 b 現代の食生活と食事の意義について思考を深めている。 栄養と健康な食生活の関わりについて考えている。 食品の購入から廃棄・環境との関わり、食生活の安全性について思考を深めている。 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようにするために、安全・健康・環境など食生活に係る情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考えている。 c 栄養、食品、調理及び食品衛生・食事と健康との関わりについて、理解している。 食生活をよりよくするための調理に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。 栄養、食品、調理に関する基礎的な知識を生かして、家族に合わせて、適切な献立作成ができる。 世界の食文化に関心をもち、自分たちの食生活への影響について理解する。	学習状況 ワークシート 学習ノート レポート 調理実技テスト 後期中間考査
			後期中間考査						
後 期	5	生活の自立	経済生活を営む	1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4 消費行動と意思決定 5 現代の消費社会 6 これからの消費生活と環境	○	○	○	a 生涯を見通した生活における経済計画について関心をもち、自立した消費者として行動しようとしている。 日常のニュース等から実際に起こっている消費者問題について興味を持っている。 b 多発する消費者問題について、その原因と対策について具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。 生涯安定した経済生活を営むことができるよう、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について考えを深め表現することができる。 c 自立した消費者として、よりよい意思決定ができるよう、多様な情報の中から、適切な情報を取捨選択し、目的に応じた活用方法について理解している。 販売方法や支払い方法が多様化する中で、責任ある消費行動がとれるよう、契約の重要性について理解している。	学習状況 ワークシート 学習ノート レポート 後期中間考査
			持続可能な生活を営む	1 持続可能な社会を目指して 2 一人一人の力で社会を動かす	○	○	○	a 一人の生活者として持続可能な社会を目指し、社会全体をより良い方向に動かしていこうとする意欲がある。 b 持続可能な社会に向けて、これから何が自分ごととして考えている。 c 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫することができる。	
			後期末考査						

#### 4 評点の観点別配点(考査以外も含む合計)

	前期中間	前期末	後期中間	後期末
a	30	30	30	30
b	30	30	30	30
c	40	40	40	40
計	100	100	100	100

#### 5 授業や課題等に取り組む上での留意点

- 1 授業には意欲をもって取り組み、ワークシートを時間内に提出すること
- 2 自己の生活や社会の生活に興味を持ち、レポートや文章で自分の意見を表現できるようにすること
- 3 学んだことを実生活に生かし、改善することができるようにする(ホームプロジェクト)
- 4 提出物は期限厳守で必ず提出すること
- 5 実験実習では器具等の扱いに十分注意すること
- 6 実験実習では安全と衛生管理を怠らず、周囲と協力し意欲的に動くこと

※変更がある場合は、教科担任が事前に連絡します。